



市立病院トピックス



問合せ
市立美唄病院事務局
☎ 63-4171

■新年のごあいさつ

輝かしい新春を迎え、皆さまのご健康をお祈り申し上げます。
昨年中は当院の医療活動ならびに病院運営に対し、温かいご理解とご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

また、当院の建て替え事業については、皆さまには長らくご不便をおかけしていましたが、約100台駐車可能な駐車場が完成し、来院しやすい安全な環境が整いましたこと、改めて感謝申し上げます。

昨年は、当院にとって医療の質の向上に注力した一年でございました。10月に2名の内科常勤医師を迎えて診療体制、救急体制を充実させたほか、リハビリテーション分野では、理学療法士1名、作業療法士2名を採用し、リハビリの質の向上に努めました。



また職種間の連携強化によって医療全体の質の向上に努め、さらには診断能力向上のため、令和8年中の稼働に向けてCT検査装置の整備も進めています。

病院経営につきましては、医療体制の充実により増収を確保するなど、明るい成果も多くあった一方で、物価高騰に伴う経費増という課題も生じました。本年は診療報酬改定を迎えますが、その結果のみに依存することなく、物価高騰という状況を前向きな改善の機会と捉え、より多くの皆さまに安心して来院していただけるよう、経費の適正化を進めるとともに、無駄のない安定した病院経営に努めながら、引き続き、当院が地域医療の中核としての役割を継続していくことができるよう、全力で取り組んでまいります。

今後も、各種の取り組みによる医療の質の向上に加え、救急医療体制の確保や在宅医療の推進、地域の医療機関や多職種との相互連携、また当院の医療情報発信の強化などを通して、市民の皆さまに信頼され「選ばれる病院」であるよう精いっぱい努めてまいります。

本年も変わらぬご支援を賜りますとともに、皆さまのこの一年のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

(病院事業管理者 松江 弘一)

■年末年始(12月27日～1月4日)は救急外来で対応します

救急外来を受診する際は、マイナ保険証または資格確認証、診察券、お薬手帳をお持ちください。特にお薬手帳は、病歴などを知るうえで大切な情報となりますので、ご協力をお願いします。

■日清食品カップ北海道小学生陸上競技交流大会 第43回北海道小学生陸上競技大会 9月14日／苫小牧市

【小学6年女子コンバインドB】3位：葛西芽依（美唄JAC）

文化・スポーツの大会やコンクールなどで好成績をあげられた方を寄せられた情報をもとに掲載しています。まちのPR係へ情報を寄せてください。

掲載基準

- ▼全国大会：16位以内
- ▼全国大会予選を兼ねた全道大会・地域予選を経た全道大会：8位以内
- ▼右記以外の全道大会：4位以内（部門別参加者が8人以下の場合）は参加者の2分の1以上の順位
- ▼その他の大会：1位のみ

市民文芸



初雪を乗せて老樹の然りげ無し	吉村道雄
初雪ややがて闘ひ始まらむ	岡崎治幸
瘦秋刀魚三尾並べて網の上	伊藤英美
我が庭や三十回目の冬迎ふ	鈴木ミツ子
松の実に小鳥飛び交ふ初時雨	岡田清志
寒空の急ぐこと沈みゆく夕陽	石垣晶子
過疎の町熊騒動で一丸に	村嶋和子
六十年の友繰り出せる白い息	斎藤慶子

明日の健康

「お年頃」は大変なんです

「いつまでも元気でいたい」とはみんなが思うこと。ちょっと待ってください、気持ちは若く持っていていいのですが、ひょっとしてその症状も「お年頃」のせいかもしれませんよ。

寿命が長くなり女性はもう少して90歳となりました。男性も女性も、子どもから大人に成長するとき体は大きく変化します。「ホルモン」と呼ばれる体の働きを調整する物質は、若いころのお年頃「思春期」に劇的に増加し、成人の体を作ります。ホルモンで心も体も大人になっていくのです。そしてもう一つの「お年頃」がはっきりと表れるのが女性。「更年期」とは、女性ホルモンの量が急激に低下し始める50歳前後から始まります。閉経5年前ごろから始まり、人によっては70歳ごろまで続きます。のぼせやほてりがよく聞く症状ですが、実はそれは20%程度

の人しかつらいと感じていません。それ以外にもイライラする落ち込むという気分のムラ、物忘れするようになったという脳の機能低下、皮膚や筋肉の衰えなど、症状は全身に及びます。整形外科でお見かけする、手指の関節が痛い、腱鞘炎が治らない、肩の動きが悪いなども、立派な「お年頃」のサインです。確かにそれは「年のせい」かもしれませんが、でもほかの病気が潜んでいないかを調べたり、「お年頃」の更年期障害治療をすることで、つらさがずいぶんと楽になる方もたくさんいます。一人で抱え込まず、どうぞ外来でご相談ください。私も「お年頃」を楽しんでいます。



【執筆者紹介】
美唄市医師会・
松本 聡子
北海道せき損センター副院長